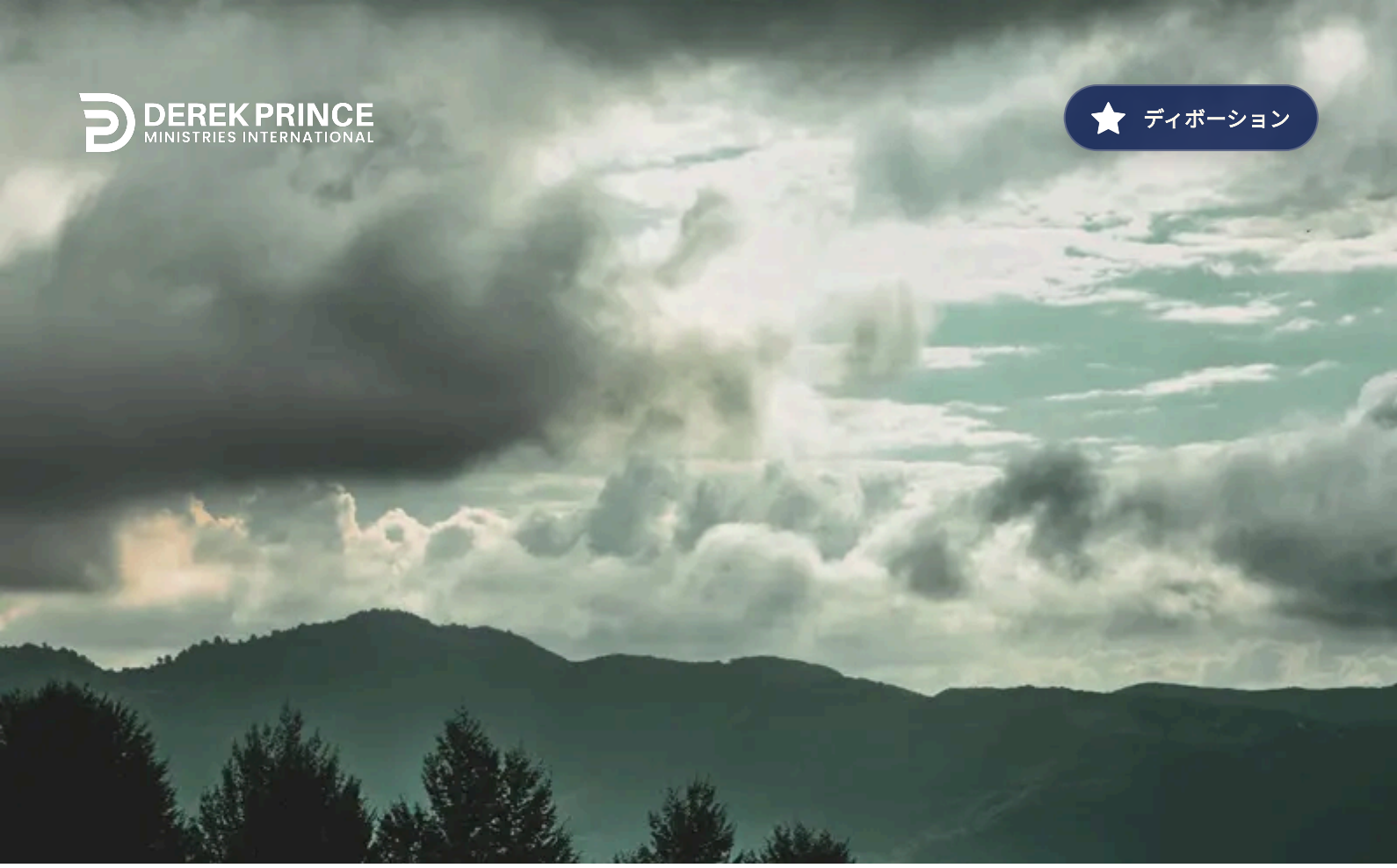


DEREK PRINCE MINISTRIES INTERNATIONAL

ディボーション

自分の思いを捨てる

成熟に向かって進みましょう



日 1970/365
Declaring God's Word
著者 デレク・プリンス

旧約聖書の祭司の特徴的な役割は、いけにえを捧げることでした。ですから、イエスも祭司としていけにえを捧げなければなりませんでした。イエスはレビ族ではなかったため、律法で決められたいけにえを捧げることはできませんでした。ですから、イエスはご自身の祭司としての特別ないけにえ、すなわち、祈りを捧げられたのです。

> キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び（ヘブル５：７－８）

敬虔な従順のゆえに、イエスの祈りは父に聞き入れられました。イエスは従順を学ばなければなりませんでした。ですから、私たちも同じようにして従順を学ぶ必要があります。従うことによって、従順とは何かが分かるようになるのです。従順についてのメッセージを聞いて分かるのではありません。それは助けにはなりますが、従うことによって少しずつ分かるようになるのです。従順は、自分の思いを否定することが求められるので苦痛を伴います。イエスの従順の鍵は、

> 「わたしの願いではなく、みこころがなりますように」（ルカ２２：４２）

です。信仰生活における従順の一歩一歩は、自己否定の歩みです。イエスは言われました。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい」（マタイ１６：２４）それは痛みを伴います。古い自我は否定されることを嫌うため、苦痛なのです。自我は、「私は欲しい」、「私は重要な人間だ」、「これが気に入った」、「私は気分がいい」、「私は欲しくない」など言います。主に従うことは、その自我を否定し続けることが求められます。それは痛みを伴います。古い自我は否定されることを嫌うため、苦痛なのです。自我は、「私は欲しい」、「私は重要な人間だ」、「これが気に入った」、「私は気分がいい」、「私は欲しくない」など言います。主に従うことは、その自我を否定し続けることが求められます。上記のヘブル人への手紙の聖句で、神は、従順によって子として成熟することについて語っておられます。イエスがその模範です。神は従順によってイエスを成熟へと導きました。これは、私たちにとっても通るべき道です。これこそが、新しい生ける道なのです。

© 2008 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク

ディボーション ★
原稿: WD-B097-314-JPN
最終更新日: 04 Oct 2026
ウェブサイト: Derekprince.com/ja/resources



© 2008 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク